



立教池袋高等学校

卒業、おめでとう。

校長 鈴木 弘

現代社会では、急速な科学の進歩や国際化の進展を受けて、人々の暮らしがどんどん豊かで便利になる一方、市場主義が生活のあらゆる場面に厳しい競争や対立を持ち込んでいます。この自由競争の激化は私たちに与えて大きな試練となつていきます。しかし、それは一人ひとりが自立した個人として二十一世紀を生きていくために、世界に向かって開かれた成熟社会を築くために、避けて通ることのできない過程のようにも思われます。ただし、その試練が私たちの生活に重くのしかかっているのも事実です。この社会的な閉塞感から抜け出すためには、次代を担う君たち若者の今後の努力に負うところが大きいと思います。君たちには志を高く掲げ、このような社会の中で自分に与えられた力で、何が出来るかを真剣に考え、時代を切り拓く先駆者になってもらいたいと願っています。

君たちは聖書を通して、自分の社会において果たすべき使命を自覚し、世のため、人のためになりたいという気持ちを持ち続けることの大切さを学んできました。君たちは一人ひとり、皆異なった良さを持ってこの世に生を受けたのです。したがって、誰にでもその良さを発揮して、世の発展に貢献できるチャンスがあるということです。そのためには、まだ学ばなければならないことが沢山あります。また、必要な能力も身につけなければなりません。いろいろな人々との出会いを大切に、人格や思想を形成していくことも大切です。また、専門分野の枠に縛られることなく、広い視野で社会を眺めることの出来る教養を身につけてください。そして、自分を問い直し、神様から授かった自分の潜在的可能性をさらに追求して欲しいと思います。君たちには磨けば光る素晴らしい個性や特性があることを自覚して欲しいのです。自ら求め学ぶ中でそれを磨き上げ、輝かせたいのです。そして、既成概念にとらわれぬ柔軟な発想で、長い人生を社会に貢献できるような歩んで欲しいと願っています。

2009年度 立教大学被推薦者の英語条項

英検2級 (TOEFL、TOEIC等も含む) 以上で認定	81%*
英検準2級 (TOEFL、TOEIC等も含む) + αで認定	19%

*準2級程度の者は、継続して学習・受験を行い、2月時点で88%に伸びた。

英語条項 今年度の高三は英語学習に対するモチベーションも全体的に高く、推薦予定者百十二名が認定されました。また、七月のGTECにおいても過去最高の成果を上げました。

2010年度 立教大学 推薦入学者数

学部	学科	専修	池袋・樺	合格者数	学部	学科	推薦枠	決定数
文	キリスト教		2	2	社会	社会	5	5
		教育	4	4		メディア社会	5	5
	文	英米文学	5	4		現代文化	5	5
		フランス文学	2	0		計	15	15
		ドイツ文学	2	0	法	法	13	13
		日本文学	4	0		国際ビジネス法	4	4
	文芸・思想	3	3	政治		4	4	
	史	日本史学	7	※8	計	21	21	
		世界史学			経営	8	8	
		超域文化学			国際経営	6	6	
計	29	21	計	14	14			
経済	経済	11	11	観光	観光	6	※7	
	経済政策	6	6		交流文化	5	0	
	会計ファイナンス	6	6		計	11	7	
	計	23	23	コミュニティ福祉	福祉	5	0	
数	2	1	コミュニティ政策		5	0		
物理	2	0	スポーツウエルネス		3	0		
理	化学	2	2	計	13	0		
	生命理	2	0	現代代理	心理	5	4	
	計	8	3		映像身体	6	0	
	計	8	3		計	11	4	
異文化コミュニケーション	異文化コミュニケーション	4	4	異文化コミュニケーション	異文化コミュニケーション	4	4	
	計	4	4		計	4	4	
合計				149	合計		112	

※ 史、観光 → 新座校より1人分枠をもらう

高校山岳スキー部 試合結果報告

一月四日から八日まで鹿沢ハイランドスキー場で行われた全国関東高校スキー大会東京都予選会において、高一田中潤が本大会回転競技で七位、大回転競技で八位となり、両種目ともにインターハイ出場権を獲得しました。

さらに高三落合邦太郎、片岡賢一、高二岩田神嗣、高一田中潤がそれぞれ関東大会出場権を獲得しました。また、二月十二日から十六日まで新潟県セントレジャー舞子スノーリゾートで行われた東京都高校スキー大会において、本大会回転競技で高一田中潤が優勝、大回転競技で高一田中潤が四位入賞しました。また、高三落合邦太郎もポイントを獲得し、その結果、本大会学校対抗の部で総合準優勝となりました。

十字 今月の聖句

終わりに、兄弟たち、喜びなさい。完全な者になりなさい。励まし合いなさい。思いを一つにしなさい。平和を保ちなさい。そうすれば、愛と平和の神があなたがたと共にいてくださいます。

「コリントの信徒への手紙二」第十三章十一節

- 二〇〇九年度高校三年生受賞者
- サッカー記念賞: 後藤 大門、大平 拓、田中 優裕
 - マカダム記念賞: 本木 智也
 - 東京都体育優良賞: 亀井 直哉
 - 東京都文化活動優良賞: 大平 拓
 - 学友会賞: 吹奏楽部
 - 団体: 國枝 元氣、吉田 元氣、宮田 友佑、田村 駿介、宮川 駿介
 - 数理研究同好会: 大平 拓、鏑木 導、喜多村 晟大、田中 優裕、小林 和正、鏑木 敦詞
 - 山岳スキー部: 落合邦太郎
 - 庭球部: 久保山 裕
 - 中澤 祐貴、沼澤良之介、瀬戸口直也、高山 智祐、田中 裕樹、森田宗一郎
 - 個人: 本橋 和樹 (科学部)、太刀川啓介 (科学部)、後藤 大門 (科学部)、大平 拓 (数理研究同好会)、田中 優裕 (数理研究同好会)、鈴木総一郎 (水泳部)、亀井 直哉 (陸上競技部)、山田 直司 (陸上競技部)

※精勤賞については紙面の都合上割愛しました。卒業式当日配布の式文をご覧ください。

Media Literacy

卒業おめでとう。言語教師として、メディアにおける言語の機能について三つ例示して、祝辞とした。今年の元旦、アメリカのニューズチャンネルがNYにて新年を祝う映像を流した際、FOX NEWSの「God Bless America」を、CNNは「Imagine」を、BGMとして使用した。それぞれのチャンネルの価値観の表れとして興味深い。

数年間フロリダ沖でキューバから漂流してきた少年が発見された際、あるメディアは「He was protected.」別は「He was captured」と伝えた。この場合、「Merry Christmas」というのをやめて「Happy Holidays」に変えようとする考え方がある。一方、それは、見てくれのみを狙った政策だと反論する考え方も(Biblical Correctness)も存在する。

我々はメディアに触れる際、話し手や著者の価値観が注入されていると考えるべきだ。それを見破り、価値判断していったほうがいい。(中三―小澤哲也)

Do YOUR Best!

いよいよ旅立ちの時です。中一の時から六年間、ずっと一緒の人。途中から加わってくれた人。今はみんなこの学年の生徒として共に今日を迎えました。うれいしです。

入学の時、高校生として「力をつける」ということを皆さんに求めました。そしてその力を発揮する時、隣人を愛する心を持って活躍して欲しいことも。今、高校生活を振り返っていかがでしたか？

君たちは、ひとりひとりが、それぞれの賜物を持っていて、それぞれが君たちの未来は、ずっとつながっています。これからも変わらずに「常に自分の最善を尽くし、人にはやさしくあれ」と願っています。(高三―初瀬川正志)

グライダーから飛行機へ

最近読んでいる『思考の整理学』という本に現在の学校教育は風によって飛ばしてもらっているグライダー人間を育てるのに適し、自力飛行する飛行機人間を育てることに適していないと書いてあった。意味が知りたければ、右の本を読むと良い。それこそが教育の本質である。私は考え、日々努力はするものの実現にはまだまだ遠い。

中学から高校になり受動的である生活を、能動的に変えるチャンスであることは間違いない。これを機に、様々な知的好奇心を呼びさめ、面倒・誘惑などに負けぬよう心がければ、前途洋々である。卒業おめでとう。(中三―砂井博光)

続・一廉の人間に成れ

二〇〇七年三月、君たちが中学を卒業したときのホルトノキ。数理解OBの集まりで感じたことは、志と情熱、向上心を今も持ち続けていること、さらにそれだけにとどまらず、不断の努力を常に惜しまないことであると書きました。

そして、二〇一〇年。いよいよ卒業式。いや、とうとうか。思いは人それぞれいろいろあるけれど、私の思いは、一つです。

今の皆さんはどうでしょう。自分の力を磨くことはできたでしょうか。さらに一段上にあがることのできたでしょうか。その次のための契機が高校卒業であると思いませんか。努力を惜しまず自分の力で、自分の志を忘れずに、大きく成長して欲しいと願っています。卒業おめでとう。(高三―内田芳宏)

十五の僕

数ヶ月前、ギター教室で一枚の譜面を渡された。覚えてのコードを押さえないから、歌詞に出てくる「十五の僕」を卒業間近の君達に重ねた。「自分とは何でどこに向かうべきか。苦悶しながら歌詞はこう続く。僕は誰の言葉を信じ歩けばいいの？」

きつと一筋縄ではないかな。中学校生活だったろう。私自身、中一は理科教師として、中二は担任として、中三は中学全体を見渡す生徒会顧問として、多感な君達と共に成長させてもらった。時には厳しいことも言った。時には優しいことも言った。時には、人懐っこい学年に支えられ歩めたことに感謝。立教で学んだ君達にこれからの言葉(君達の本音)を信じ歩けばいいか分かるはず。それぞれの道の上に神の祝福があるように。卒業おめでとう。(中三―吉田清典)

立教生として

卒業おめでとう。これから始まる新しい生活に胸を膨らませていくことでしょうか。是非、新しい環境で多くの事に挑戦してもらいたいと思います。

その時こそ、君達の真の力を発揮する機会です。本気で学んだこと、体験したことを実践して下さい。私達は自信を持って君達を世に送り出します。

「天の国はからし種に似ている。人がこれを取ると畑に蒔けば、どんな種よりも小さいのに、成長するとどの野菜よりも大きくなり、空の鳥が来て枝に巣を作るほどの木になる。」(マタイ十三章三一節) 学校生活のさまざまな場面、我々には多くの種を蒔いてきました。その種がどのような木に育つか楽しみにしています。これから始まる新しい世界で、立教池袋高等学校の卒業生として、活躍してください。卒業生を期待しています。(高三―後藤寛)

中学一年便り

一年を振り返って

まず生活面においては、ルールを無視した行いが目立った感がありました。注意を促しても繰り返す、同じ行動をおこなってしまいう。自問自答している時、ふとある対話を思い出しました。それは世界的に著名な(故)ヘルベルト・フォン・カラヤンと小澤征爾との対談です。小澤氏が、「プロのオーケストラプレイヤーなのに何百回同じ事を言っても出ないのはどうしてなのでしょう？」とカラヤン氏に尋ねた所、「世界最高峰のオーケストラ、ベルリンフィルハーモニー交響楽団でも小澤君は何万回も同じ事を言っているよ！」愕然とした小澤氏は「まだまだ言い足りないのです」と。

私はこのふたりの話から、何度と同じ事を繰り返す言いつづけることが大切であると気づきました。学校と家庭が連絡を密にし、生徒にやる気を起こさせる努力を怠ってはいけません。一方で継続指導を行ってきた教室美化においては、皆がしっかりと掃除をする様になり、成長を遂げたことに、嬉しく思っています。

学習面においては、家庭学習が身についた生徒と、いまだにやる気を起こすことができない生徒と、落ち着いて学習できない生徒との間に結果として差が表れてきました。授業での集中と家庭での復習を怠らず、努力して欲しいと思っています。

これから二年生に進級するにあたり、人を思いやる心を持つ、自らが気づき、責任ある行動をとれる学年になって欲しいと願っています。(西澤宏佳)

中学二年便り

三年生に向けて

来年度の生徒会役員が二月十八日に決定しました。中学生徒副会長には中学二年生の二名の者が立候補し、横尾一壘君に決まりました。二人とも学校生活をよく良いものにしてしようという掲げた公約はたいへん立派なものでした。来年度の中学生徒会も大いに期待が持てます。

中学二年生という、よく中だるみの学年と言われることがあります。その理由を考えて見ますと、まず一年生のときに持った新鮮な気持ちの薄れて来た。そして、三年生のような上級生としての自覚がなく、高等学校へ進学するといった目標もまだ表れないからだと思います。

四月から中学の最高学年となる君たちには、是非、目標を持って突き進んでほしいと願っています。今年の十二月には立教池袋高等学校への推薦が決定され、それに向けて、学習面では今まで以上にコツコツとした地道な努力をし、A合格やB合格を一つでも多く取るように頑張ってください。また、クラブ活動の面でも一、二年生の模範となり、よく面倒を見つ、自分の能力や技術の向上を目指し、各大会等での成績を残してほしいと思っています。特に運動部では夏の大大会等に向けてこの春休みから練習が強化され、学芸部でもR.I.F.での発表、展示の方針が決定されると思っています。四月に入ってから考えるのは遅すぎます。この時期に三年生になったらどうするのか、自分自身で目標を定め、四月からのスタートに備えることが大事です。(松本邦男)

高校一年便り

毎朝の小テストの本音

今年度の一年間を振り返っていかがでしたでしょうか。四月当初は、高校に入学した新鮮さと少しの緊張感があり、張りのある生活を送っていた事と思います。数週間経過すると、クラス替えをしたとはいえ、中学三年間一緒に学校生活を送ってきた者が殆どなので、緊張どころか、高校の自由な生活(携帯可・ゲーム可)に羽を伸ばしてしまっただけの事ではないでしょうか。中学と大きな違いは三人の組主任と朝実施する漢字テスト・キクタンテストかな。スタート当初は成績に直接関係ないので、全体的にあまり準備せずに臨んでいる人も見受けられ、やめて欲しいという声もあつたが、段々軌道に乗って、学期ごとに上位者にさきやかな褒美が授けられ、特に後期になり、内容も難しくなる(漢字テストでいえば二級)と、毎朝の教室の雰囲気も違って来た。朝飯を食べながらも片手には漢字マスター・キクタンを持っている。習慣とは恐ろしいものだ。ほんの五分足らずのテストではあるが、毎朝の習慣が少しずつ根付いてきている。こちらもちよび嬉しくなり、頑張った生徒には簡単なコメントを思わず書いてしまう。毎朝の小テストは出来・不出来もさることながら、このように我々と生徒諸君との言わば心の触れ合いになれば良いと思つていく。内容が寂しい状態が続く人には、「最近元気がないね。今度話をしようか」と温かい言葉を添えて。

来年度は毎朝の小テストがどうなるかは不明だが、私が関係するならば、このように捉えていると嬉しい。えていてもらえると嬉しい。(橋本博)

高校二年便り

学校の「顔」から「礎」へ

本校では、生徒会は高校二年生が中心になって運営していく。生徒会長を初めR.I.F.実行委員長、各専門委員長は高二。クラブでも途中三年生が引退して二年生が中心になっていく。そんな学校の顔としての二年生が終わろうとしている。この一年間はどうかだったろう。

今年度は何と言っても新型インフルエンザにかき回された一年であった。校外学習、体育祭は中止。R.I.F.も危なかったが、無事に開催。その準備を各部署で着々と進めたいのが嬉しかった。クラブ活動でも、下級生にきちんと指示している場面がよく見られた。生徒会も色々な企画や、生徒総会の日程を変更するなど次々と活動が続いている。

そして高三が登校しなくなった今、高二はどんな立場なのだろうか。来年度の生徒会長は決まった。君達は卒論の為の面接をやっている。英語条項を真剣に考えなければ推薦が危うい者も。大学で学ぶ事など個人で腰を据えて考えることが増えてくる。

学校の顔としての高二が終わったら、次はもう進学の事で精一杯？そうかもしれない。でもこの一年の経験は君達を大きく成長させたと思う。顔として頑張っている二年生の後でアドバースできる、注意できる。その存在は大きいと思う。校内でも遊び場のファッションでチャラチャラしているのと、式典でピシッと決まて構えているのでは、学校の雰囲気は違うだろう。先生が中学生や下級生を指導する前に、先輩として注意。そうならば、学校全体に落ち着きや安心感が醸し出されてくる。そんな役割を期待したい。(大塚稔夫)